

看護教育の臨地実習指導における LTD 話し合い学習法の応用可能性

企 画：牧野典子（中部大学）・鮫島輝美（京都光華女子大学）

司 会：鮫島輝美（京都光華女子大学）

話題提供者：牧野典子（中部大学）

松田麗子（中部大学）

滝沢美世志（中部大学）

ファシリテーター：緒方巧（梅花女子大学）

キーワード：看護教育、臨地実習指導、LTD 話し合い学習法、学びの深化

看護教育において、臨地実習は看護実践能力の基本を学ぶ上で、極めて重要な授業科目となっている。看護学実習とは、「あらゆる看護の場において、各看護学の講義・演習により得た科学的知識、技術を実際の患者・クライアントを対象に実践し、既習の理論、知識、技術を統合、深化、検証するとともに、看護の社会的価値を顕彰するという学習目標を達成する授業である。」と定義づけられている（杉森・舟島、2005）。

多くの看護系大学では、この看護実践能力を育むために、臨地実習において、看護理論を基盤とし、患者の健康問題に関する情報をアセスメントし看護問題の明確化（看護診断）、看護計画の実施・評価という看護過程を展開している。しかし、こういった看護過程を重視した臨地実習は、「患者の特定の部分だけが過度に強調されて、看護の全体性や関係性を見失う」という問題も指摘されている（深田他、2015）。通常、臨地実習では、学生は特定の患者を個別に受け持つために、そこでの学びは、「その内容や範囲に個別の制約が課せられて、個人的な学びにおちいつている」（石田、2015）、ともいわれている。

また、近年、学生の生活体験が乏しく、社会常識の未習得・コミュニケーション能力の不足が指摘され、特に大学全入時代を迎えた今、能動的に学ぶ力が低下しているという大きな教育的課題も抱えている。そのため、大学教育において「教育から学習への転換」の鍵として「アクティブラーニング」に注目が集まっている。

以上から考察すると、看護教育における臨地実習は、まさに「アクティブラーニング」の場となりやすい。つまり、臨地実習は、受動的になりやすい講義形式の授業とは異なり、能動的な学習サイクル（Engestrom、1994）へ学習者を誘いやすいという利点がある。

学習サイクルには、「動機付け」から「コントロール」までの6つのステップが存在している（松下、2015）。第1ステップである「動機づけ」とは、学習者が出会う問題と既有知識や経験との間で生じるコンフリクトであり、学習者がこれまでの知識や経験では目の前の問題に対処できない事態に直面する事である。このような事態に直面した学習者は、こ

のコンフリクトの解決を目指し学習活動を始める。これが、「方向付け」である。そのために必要な知識を習得する事が「内化」であり、内化した知識を実践において適用し、コンフリクトの解決を試みる事が「外化」に相当する。それは、単なる知識の適用にとどまらず、適用していく中で、知識の限界に遭遇し、その知識の再構築を迫られる（批評）。最終的に学習者は、これまでの一連のプロセスを振り返り、必要に応じて修正を行いながら、次の学習プロセスへと向かう。これが「コントロール」である。

この学習プロセスの中で、より学びを深化させるには、「内化」と「外化」をどう組み合わせるかが課題となる。内化と外化の関係は、「内化→外化」といった一方的なものではなく、一旦内化された知識は、問題解決のために使ったり、人に話したり書いたりするなどの外化の活動を通じて再構築され、より深い理解となっていくのである。

協同学習においても、学習は社会的活動と位置づけられ、学びとは学習者が自らの中に知識を再構築・精緻化していく過程と考えられている。特に、方法論の一つである LTD 話し合い学習法（以後、LTD）は、受動的な学習のあり方を改善し、学習者を学びの主体とするために創案された学習法である。これまで LTD での学びの対象は、テキスト教材（課題文）であった。石田（2015）は、学びの対象である課題文を臨地実習における学生の体験内容とし、臨地実習体験による LTD を、LTD-NP 版（Learning Through Discussion for Nursing Practice）として開発を試みた。これまで看護教育における協同学習の適用は、学内での授業や演習に留まっていた。しかし、今回の話題提起者は、その LTD-NP を臨地実習での学びを深化させる道具、特に「内化-外化」の相互関係を促進する道具として活用し、協同学習の適用を実習へと広げたパイオニア的存在である。

RT では、学生たちがどのように学びを深化させていったのか、事例を共有した上で、参加者たちとともに臨地実習における話し合い学習法の応用可能性について考えていきたい。多くの参加を期待している。

Engestrom, Y. (1994). Training for change: New Approach to instruction and learning in working life. Paris: International Labour Office.

（エンゲストローム、Y. 松下佳代・百合草禎二（監訳）（2010）. 変革を生む研修のデザイン-仕事を教える人への活動理論-、鳳書房）

深田あきみ・新橋澄子・下高原理恵・峰和治・李慧瑛・緒方重光（2015）、学生のリフレクションを促す経験型実習：主体的に学ぶ力を育成するための取り組み、鹿児島大学医学部保健学科紀要、25（1）、11-18.

石田裕久（2015）. 看護学臨地実習への LTD 話し合い学習法応用の試み、人間関係研究、14、86-101.

松下佳代（2015）. 序章 ディープ・アクティブラーニングへの誘い 松下佳代（編）ディープ・アクティブラーニング 大学の学びを深化させるために 勁草書房 pp.1-27.

杉森みどり・舟島なをみ（2005）、看護教育学 第4版、医学書院 pp.251-252.